

学年毎の目標の段階表【小学校 第6学年】

話すこと（I）→『Spoken Interaction』 話すこと（P）→『Spoken Production』
 読むこと（音）→『音読』 読むこと（理）→『内容理解』

コミュニケーションへの関心・意欲・態度		外国語理解・表現の能力				言語や文化についての知識・理解		
取組（ ） / 継続		話題	内容	方法	程度	言語知識	文化理解	実施時期・方法
聞く	<ul style="list-style-type: none"> 相手の話に自分の言葉で感想を付け加えながら積極的に聞いている。 相手の話に自分の言葉で感想を付け加えながら積極的に聞いている。 相手の話に「Really?」、「Me,too」等、驚きや感想の言葉をつけ加えながら積極的に聞いている。 間違ふことを恐れず英語を積極的に聞いている。 相手を見て、話し手に注意をはらって積極的に聞いている。 笑顔等で話し手をリラックスさせながら積極的に聞いている。 理解できないことを表情等で示しながら積極的に聞いている。 うなずいたり、「OK」等の表現を用いたりして、理解していることを示しながら積極的に聞いている。 分からない語句等があっても、類推しながら積極的に聞いている。 	自分自身や身近な事について	好きなことややりたいこと、その理由、できること及び世界の地域や学校の魅力等を	<ul style="list-style-type: none"> 大切な言葉や強勢のある言葉を手掛かりにして より詳しく知りたいことについて質問して理解しながら 分からないことについて質問して理解しながら 大切な言葉や強勢のある言葉を手掛かりにして 聞き取りにくかったときに自信のない言葉を上昇口調で繰り返して、相手に確認しながら 語の内容のポイントを繰り返すことで、理解していることを、伝えながら 大切な言葉や強勢のある言葉を手掛かりにして 聞き取れない時や理解できない時に「Pardon?」、「One more time, please.」等で繰り返して求めながら 	ゆっくりはっきりと話される5～6文程度の英語を聞くことができる。	世界の地域や学校の魅力等を問答する言語材料について正しく理解している。	家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「聞くこと」の言語活動に必要な文化背景について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステスト 第1回「生活時間を見直そう」 第2回「みんなでやろう体づくり運動」 第3回「どこへいきたい～世界編～」 第4回 1年間のまとめ 各単元末に行う言語知識を計るテスト（チャレンジクイズ） 聞くことを指導の中心とする単元後に行う、まとまりのある英文を聞き取れるかどうかを計るリスニングテスト
	<ul style="list-style-type: none"> 質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように積極的に話している。 聞き手の表情を見るなど、話を理解しているか確認しながら積極的に話している。 間違ふことを恐れず英語を積極的に聞いている。 相手を見て、話し手に注意をはらって積極的に聞いている。 笑顔等で話し手をリラックスさせながら積極的に聞いている。 「OK?」等の表現を用い、聞き手が理解しているか確認しながら積極的に話している。 	自分自身や身近な生活及び世界について	好きなことややりたいこと、その理由、できること及び世界の地域や学校の魅力等を	<ul style="list-style-type: none"> 大切な部分に強勢を置いたり、大切な部分を繰り返したりして、伝えたいことを強調しながら 相手が理解しにくい時に、反対語や例を示したり、絵を描いたりして説明を加えながら 大切な部分に強勢を置いたり、大切な部分を繰り返したりして、伝えたいことを強調しながら 相手が理解しにくい時に、身振り、手振り等で説明を加えながら 英語特有の音やリズム、イントネーションで 聞き手に伝わる適切な音量と明瞭な音声で 	15語前後、3～4往復程度の英語で話すことができる。	これまでに学習してきたことに加え、学校の魅力等を問答する言語材料について正しく理解している。	家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化背景について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステスト 第1回「生活時間を見直そう」 第4回 1年間のまとめ
<ul style="list-style-type: none"> 質問を織り交ぜて聞き手を話題に巻き込むように（積極的に）話し続けている（話している）。 聞き手の表情を見るなど、話を理解しているか確認しながら（積極的に）話し続けている（話している）。 間違ふことを恐れず英語を（積極的に）聞き続けている（聞いている）。 相手を見て、話し手に注意をはらって（積極的に）聞き続けている（聞いている）。 笑顔等で話し手をリラックスさせながら（積極的に）聞き続けている（聞いている）。 「OK?」等の表現を用い、聞き手が理解しているか確認しながら（積極的に）話し続けている（話している）。 	身近な生活及び世界について	世界の国々の魅力や自分たちが考えた体づくり運動の特徴等を	<ul style="list-style-type: none"> 大切な部分に強勢を置いたり、大切な部分を繰り返したりして、伝えたいことを強調しながら 相手が理解しにくい時に、反対語や例を示したり、絵を描いたりして説明を加えながら 大切な部分に強勢を置いて 相手が理解しにくい時に、身振り、手振り等で説明を加えながら 絵や写真、具体物等を指し示して分かりやすく 英語特有の音やリズム、イントネーションで、発音しながら 	4～5文程度の英語で話すことができる。	これまでに学習してきたことに加え、自分達が考えた体づくり運動の特徴を説明するときに使う言語材料について正しく理解している。	家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「話すこと」の言語活動に必要な文化背景について理解している。	<ul style="list-style-type: none"> パフォーマンステスト 第2回「みんなでやろう体づくり運動」 第3回「どこへいきたい～世界編～」 第4回 1年間のまとめ 	
<ul style="list-style-type: none"> 読み間違えたり、詰まったりしたときに積極的に読み直して音読している。 間違ふことを恐れず積極的に音読している。 読み間違えたときに読み直して積極的に音読している。 	身近な事について	自分や友だちの好きなことや将来の夢等を	<ul style="list-style-type: none"> 語の長さやローマ字読み、アルファベットのもつ音に加え、発音と綴りの関係性を手がかりにしながら、声量や明瞭さに留意して 音声の5項目に留意して 文字の形や語の長さ、ローマ字読みやアルファベットのもつ音を手がかりにしながら、声量や明瞭さに留意して 語の基本的な強勢に留意して 現代の標準的な発音で 見本と見比べながら、声量や明瞭さに留意して 	1文 4～6語程度からなる英文を音読することができる。	これまでに学習してきたことに加え、自分や友だちの好きなことや将来の夢等を表現する言語材料の読み方を正しく理解している。	家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化背景について理解している。	授業内における行動観察 第4回パフォーマンステスト	
<ul style="list-style-type: none"> より多くの英文を積極的に読んでいる。 分からない語句や表現がある場合には、辞書を活用して積極的に読んでいる。 分からない語がある場合には、ワークシートを活用して積極的に読んでいる。 内容を理解しようとして積極的に単語に単語を讀んでいる。 読み方が分からない場合に、イラスト付き単語カードを手がかりにして積極的に読んでいる。 	身近な事について	自分や友だちの好きなことや将来の夢等を	<ul style="list-style-type: none"> 文中にある大切な内容語を手がかりにして 学習した単語の知識を活用して 	1文 4～6語程度からなる英文の意味を理解することができる。	これまでに学習してきたことに加え、自分や友だちの好きなことや将来の夢等を表現する英文の意味を正しく理解している。	家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「読むこと」の言語活動に必要な文化背景について理解している。	文字特化（読む）単元「シークレットアルバムをつくらう」におけるワークシート 文字特化（読む）単元「シークレットアルバムをつくらう」の後に行うペーパーテスト	
<ul style="list-style-type: none"> 間違ふことを恐れず、単語や文を積極的に書いている。 間違ふことを恐れず、積極的に単語を書いている。 間違ふことを恐れず、アルファベットの英文字、小文字を積極的に書こうとする。 分からない文字がある場合には、見本を調べ、それを手がかりにして積極的に書いている。 見本を手がかりにして積極的に書いている。 	自分自身や身近な事について	好きなものややすきなこと、誕生日、将来の夢等を	<ul style="list-style-type: none"> 読み手が理解しやすいように単語と単語の間に適切な間隔を空けて 語や文における大文字、小文字を正しく使い分けて 文の内容に合わせて、符号を正しく用いて 主語と動詞を的確にとらえて 語に振るべき文字、本文字を正しく使い分けて 読み手が理解しやすいように、文字と文字の間隔を整った、ひとまとまりの単語で 正しい文字の大きさと位置で 読み手が理解しやすいように丁寧に 形や4線を意識して 	20語前後、4文程度の英語を書き写すことができる。	これまでに学習してきたことに加え、英文を書くときの決まりを理解している。	家庭、学校や社会における日常生活や風俗習慣など、「書くこと」の言語活動に必要な文化背景について理解している。	文字特化（書く）単元「卒業文集をつくらう」におけるワークシート 文字特化（書く）単元「卒業文集をつくらう」の後に行うペーパーテスト	